

2020年度 歯科医師後期臨床研修プログラム

1. 名 称

- ①東京医科大学病院歯科医師後期臨床研修プログラム 新宿コース
- ②東京医科大学病院歯科医師後期臨床研修プログラム 茨城・八王子コース

プログラム責任者：歯科口腔外科・矯正歯科 主任教授 近津 大地

2. 研修歯科医師の募集定員

- ①東京医科大学病院歯科医師後期臨床研修プログラム 新宿コース 若干名
- ②東京医科大学病院歯科医師後期臨床研修プログラム 茨城・八王子コース なし

3. 目 的

本研修プログラムは歯科医師初期臨床研修プログラムを修了したものを対象としている。歯科口腔外科医師として必要な診断および治療に関する専門的知識と技術の習得を目指すものである。

4. 特 色

本研修プログラムは歯科医師初期臨床研修プログラムを修了した後のアドバンスコースとして位置づけている。歯科医師として基本的な歯科治療の習得と口腔外科疾患の診断と治療を学んだ後、医学部附属病院としての特色を活かした医科研修を通して全身管理の基本的知識と技術を習得する。さらに、口腔外科疾患の基本的な手術手技を習得し、口腔外科認定医の取得を目指す。この目標を達成するために、新宿コースでは、東京医科大学病院において歯科口腔外科・矯正歯科外来と病棟を経験し治療の知識と手技を習得し、さらには東京医科大学茨城医療センター・東京医科大学八王子医療センターでの歯科口腔外科研修、放射線科、麻酔科、救命救急センターなどの関連医科臨床各科を研修する。また、関連病院での研修も行っている。茨城・八王子コースでは、東京医科大学茨城医療センター・東京医科大学八王子医療センターでの歯科口腔外科研修を主とし、また救命救急センターでの関連医科臨床を研修する。また、関連病院での研修も行っている。

5. 概 要

本研修プログラムにおいて、研修期間は3年間とする。初期臨床研修修了後、東京医科大学附属病院や関連病院などにおいてさらに高度な研修を経験することにより、口腔外科認定医や専門医を目指す。また、後期臨床研修修了後は大学院への進学の道も開かれている。そのほか下記の研修を行う。

- 1. プライマリケアのためのワンポイントレクチャー
- 2. 講義・セミナー
- 3. 症例検討会
- 4. 学会・論文発表
- 5. 抄読会

ローテーションイメージ(具体例)

- ①東京医科大学病院歯科医師後期臨床研修プログラム 新宿コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	新宿		放射線		麻酔科			八王子		茨城		
2年目	救命				新宿・八王子・茨城							
3年目	関連病院						新宿					

注) ローテーションの時期、期間、研修先などは後期研修医毎に異なります。

②東京医科大学病院歯科医師後期臨床研修プログラム 茨城・八王子コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	茨城											
2年目	八王子											
3年目	救命救急センター（関連病院）						関連病院					

注) ローテーションの時期、期間、研修先などは後期研修医毎に異なります。

6. 歯科医師臨床研修の到達目標

歯科医師臨床研修「基本習得コース」

【一般目標】

生涯にわたる研修を行うために、より広範囲の歯科医療について知識、態度及び技能を習得する態度を養う。

(1) 救急処置

【一般目標】

歯科診療を安全に行うために、必要な救急処置に関する知識、態度及び技能を習得する。

【行動目標】

- (1) バイタルサインを観察し、異常を評価する。
- (2) 服用薬剤の歯科診療に関連する副作用を説明する。
- (3) 全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する。
- (4) 歯科診療時の全身的合併症への対処法を説明する。
- (5) 一次救命処置を実践する。
- (6) 二次救命処置の対処法を説明する。

(2) 医療安全・感染予防

【一般目標】

円滑な歯科診療を実施するために、必要な医療安全・感染予防に関する知識、態度及び技能を習得する。

【行動目標】

- (1) 医療安全対策を説明する。
- (2) アクシデント及びインシデントを説明する。
- (3) 医療過誤について説明する。
- (4) 院内感染対策（Standard Precautionsを含む。）を説明する。
- (5) 院内感染対策を実践する。

(3) 経過評価管理

【一般目標】

自ら行った治療の経過を観察評価するために、診断及び治療に対するフィードバックに必要な知識、態度及び技能を習得する。

【行動目標】

- (1) リコールシステムの重要性を説明する。
- (2) 治療の結果を評価する。
- (3) 予後を推測する。

(4) 予防・治療技術

【一般目標】

生涯研修のために必要な専門的知識や高度先進的技術を理解する。

【行動目標】

- (1) 専門的な分野の情報を収集する。
- (2) 専門的な分野を体験する。
- (3) P O S (Problem Oriented System)に基づいた医療を説明する。
- (4) E B M (Evidence Based Medicine)に基づいた医療を説明する。

(5) 医療管理

【一般目標】

適切な歯科診療を行うために、必要となるより広範囲な歯科医師の社会的役割を理解する。

【行動目標】

- (1) 歯科医療機関の経営管理を説明する。
- (2) 常に、必要に応じた医療情報の収集を行う。
- (3) 適切な放射線管理を実践する。
- (4) 医療廃棄物を適切に処理する。

(6) 地域医療

【一般目標】

歯科診療を適切に行うために、地域医療についての知識、態度及び技能を習得する。

【行動目標】

- (1) 医療連携を説明する。

7. 東京医科大学附属病院 各施設の特徴

東京医科大学病院歯科口腔外科・矯正歯科

外来一般歯科とは別に各種の専門外来（腫瘍外来、粘膜疾患外来、顎変形症外来、顎関節外来、口腔エイズを含む血液外来、舌や顔面の不定疼痛を診る慢性疼痛外来、顎顔面補綴外来、矯正歯科外来、睡眠時無呼吸外来、口腔ケア外来）を設けている。また、顎顔面インプラントセンター、口唇口蓋裂センターも併設している。研修医はこれらの専門外来と各センターをローテーションして研修する。血液外来の扱う口腔 HIV 感染者・AIDS 患者は国内最多である。慢性疼痛患者も極めて多く、社会の複雑化とともに増加する傾向にある。

病棟患者は東京医科大学病院では口腔癌および顎変形症の患者が多い。また顔面骨骨折・外傷患者も多い。なかでも悪性腫瘍は全身的視点に立った治療が必要であるが、医学部歯科口腔外科の特長を生かして、各科と連携して集学的治療を行っている。手術は上顎から鎖骨上までを守備範囲とし、マイクロサージェリーを用いた各種の（筋・骨）皮弁やPCBM（腸骨骨髓海綿骨）による再建術を行っている。また、早期癌にはPDT（光線力学的治療）も利用している。眼球を含む顔面欠損には顎顔面補綴を行い、患者の社会復帰を可能にしている。

東京医科大学茨城医療センター歯科口腔外科

茨城医療センター歯科口腔外科は、口腔外科手術から有病者の口腔ケアまで広範な分野を満遍なくカバーできるような診療体制を構築している。東京医科大学病院に比べ少人数なので、一人の患者を初診時から実際に担当し、全身麻酔での手術執刀やインプラントの埋入手術、そして術後の経過観察まで、きめ細やかな指導の下に体系的・実践的に習得することが可能である。当センターは、日本口腔外科学会、日本有病者歯科医療学会、日本顎顔面インプラント学会、日本口腔インプラント学会、日本小児口腔外科学会、日本顎関節学会、日本睡眠学会、日本睡眠歯科学会の研修施設認定も受けている。1年の研修により、日本口腔外科学会、日本睡眠学会および睡眠歯科学会の認定認定医取得単位をほぼ充足出来るようプログラムされ、各種の認定・専門医資格の習得への近道となっている。さらに、インプラント治療は、最新の研究成果に基づき世界的に見ても最先端の治療を行っている。また、顎矯正手術は通常の骨格性咬合異常だけでなく、睡眠時無呼吸症候群患者に対する手術も体験できるなど、地域医療を経験しながら、最先端医療を同時に研修することが可能である。

東京医科大学八王子医療センター歯科口腔外科

外来一般歯科とは別に、八王子市、相模原市、山梨県など、近隣歯科医院からの紹介患者の診療が中心である。埋伏智歯、顎関節症、急性歯性炎症、骨折、歯牙損傷などの外傷、嚢胞性疾患、口腔悪性腫瘍、顎変形症、インプラントなど多岐にわたる患者が来院する。顎変形症例は矯正歯科医との連携により、年間 30 例以上の外科矯正手術を行っている。顎関節症に関しては画像診断を中心に最先端の診療機器を生かした高度な医療を提供し、進行症例には関節鏡視下手術を含む手術治療を併用して根治を目指している。また、全身疾患を有する有病者については、医科大学病院の特徴を生かし、関連各科と連携を密にした治療を行っている。少人数のスタッフのため多忙ではあるが、密度の高い研修を提供している。

8. 研修医（歯科）に望むこと

口腔外科の認定医・専門医取得に向けて、大学院進学まで視野に入れた研修を希望する者の応募を期待する。